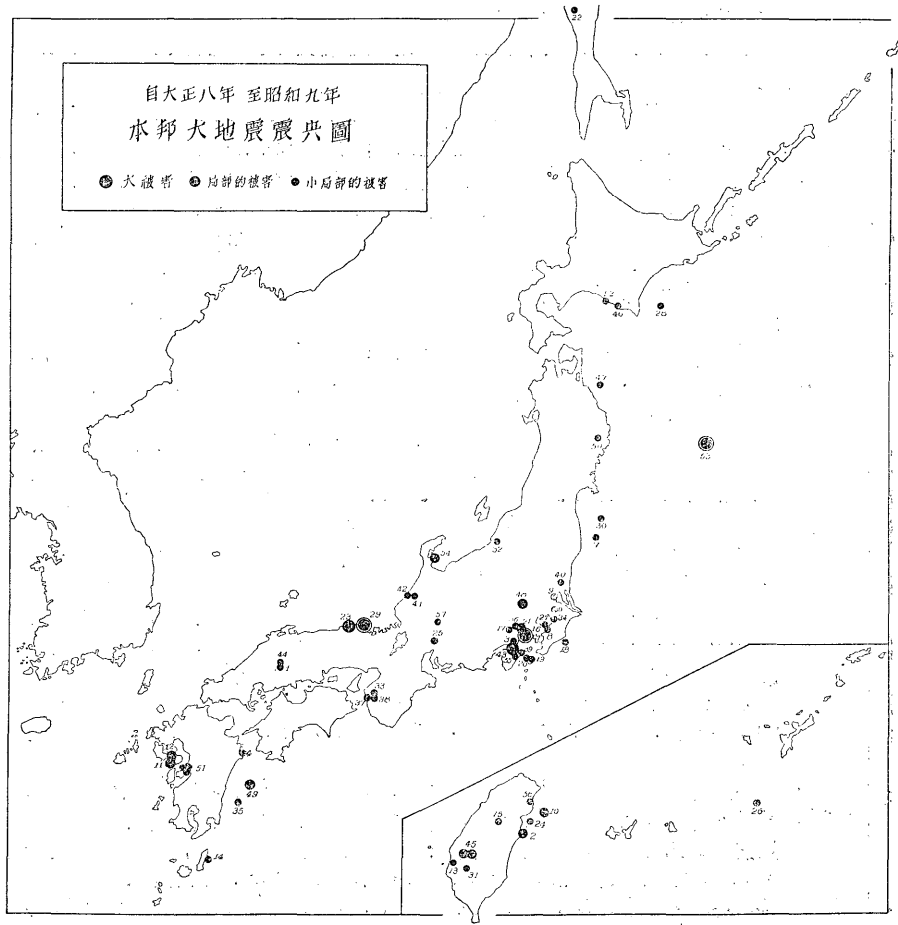


報 告

自大正 8 年 至昭和 9 年 本邦大地震概表

竹 花 峰 夫

1. 緒言 曩に故大森博士が編纂された本邦大地震概説及び概表は 允恭天皇 5 年 (西曆 416 年) より大正 7 年 (1918 年) に至る大地震の記録を蒐録したものである。本表は之が補足として大正 8 年 (1919 年) より昭和 9 年末 (1934 年)迄の期間に於



ける氣象要覽其の他の材料により本邦に於て多少でも被害ありし地震を表示したものである。被害の甚だ輕微なるため記載洩れのものもあるかもしれないが、主要なもの大部分は蒐録した心算である。表中の主な地震に關しては多くの人によつて充分調査研究されたものが多い、之等を再記載するのは無意味でもあるし、又表の複雑を避けるため極めて簡単に事實を記載するに止めた、謂はゞ本表は最近我が國に起つた著しい地震の索引の如きものであつて、個々の地震に關する詳細な記録は本文の末尾に附した文献に就て一々調査せられたい。

2. 自大正8年 至昭和9年 本邦大地震概表

有感覺區域とは人身感覺のありたる區域、強震區域とは強震(弱き方)、強震或は烈震を感じたる區域、激震區域とは著しき被害のあつた區域を云ふ。(VI)は烈震、(V)は強震、(IV)は強震(弱き方)。顯著地震とは有感覺區域半径 300 軒以上に及ぶもの、稍顯著地震とは 200~300 軒、小區域地震は 100~200 軒に及ぶものである。

No.	發震時刻	震 央 (北緯, 東經)	記 事																		
1	大正8年(1919) Ⅺ 1日 8時36分	廣島一三次附近 ⁽¹⁾ (34°8, 132°9)	<p>有感覺區域; 中國及び四國の大部。強震區域; 三次町東方八次村を中心とする方十數軒の區域。被害; 三次, 山内西, 和田, 八次の諸町村にて土藏壁の龜裂, 石垣の破壊, 石燈籠, 墓石の轉倒等あり。異常現象; 地鳴は本震後數日間屢聞え, 井水處により減水或は増水し, 八次村にては2米近く増水した處もあつた。餘震; 本震後10日間に約80回あり, 内2日8時27分及び3日19時08分に稍顯著地震あり。</p>																		
2	大正9年(1920) Ⅵ 5日13時21分	臺灣花蓮港沖 ⁽²⁾ (24°0, 121°7)	<p>有感覺區域; 臺灣全島, 石垣島, 奄美大島。強震區域; 臺灣の北三分の二及び石垣島。(V)花蓮港, 石垣島, 臺中。(IV)臺東, 臺北, 臺南。</p> <p>被害は臺中以北に多く, 南投, 嘉義以南は極めて少い。被害家屋は主に土塊構造の家屋なり, 其の他酒甕, 煙突, 道路, 橋梁, 電柱等の破損あり。</p> <p style="text-align: center;">被 害</p> <table border="1" style="margin: 0 auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">死者</th> <th rowspan="2">重傷</th> <th rowspan="2">輕傷</th> <th colspan="4">家 屋</th> </tr> <tr> <th>全壞</th> <th>半壞</th> <th>大破</th> <th>小破</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">274</td> <td style="text-align: center;">277</td> <td style="text-align: center;">402</td> <td style="text-align: center;">578</td> </tr> </tbody> </table> <p>海震; 花蓮港附近にて沿岸航路長春丸は暗礁に觸れたる如く感じ, 基隆港の船舶亦之を感ず, 日本郵船三河丸は23°12'N, 122°E邊に於て海震を感じ, 机上の器物墜落す。</p> <p>前震; 一回あり。餘震; 本震後9日間に花蓮港にて135回觀測す。内5日23時45分, 6日0時54分, 同1時39分, 7日7時51分, に稍顯著地震あり。</p>	死者	重傷	輕傷	家 屋				全壞	半壞	大破	小破	5	8	12	274	277	402	578
死者	重傷	輕傷	家 屋																		
			全壞	半壞	大破	小破															
5	8	12	274	277	402	578															
3	大正9年(1920) Ⅻ 27日18時21分	箱 根 山 ⁽²⁾ (35°2, 139°0)	<p>有感覺區域, 關東及び中部地方の大半。強震區域; 箱根町, 元箱根, 箕ノ平, 湯花澤, 蘆ノ湯, 畑宿, 姥子, 上湯場, 宮城野。被害; 箱根町, 元箱根, 箕ノ平附近にて被害あり。箱根町では器物顛倒, 壁落ち, 石垣崩れたる處あり, 元箱根では湖畔の石像, 塔は多數西に倒れ, 家屋に狂ひを生じ, 石垣の崩れたもの少なからず。鳴</p>																		

No.	發震時刻	震央 (北緯, 東經)	記 事
			動, 27日朝より箱根町及び元箱根にて鳴動あり。前震, 箱根町にて26日11時40分, 27日8時44分, 弱震あり, 同17時20分強震あり。餘震; 27日6時24分乃至11時54分間に強震4回, 微弱震約20回, 夫より夜半迄に微震數回, 28日より31日午前中迄に微震26回あり。内27日22時の強震では笈ノ平にて, 二子山より徑5尺の大石落下し石碑を破壊し, 笈ノ平, 芦ノ湯にて器物の顛倒等あり。
4	大正10年(1921) IV 19日 2時59分	大分 佐伯附近 (32°9, 131°9)	大分では弱震, 佐伯附近で稍強く感じ, 二三日 前より降雨で弛緩した崖崩壊し, 徳浦隧道との中 間で機關車脱線顛覆して負傷者を出す。
5	大正10年(1921) IX 6日 5時02分	千島新知島附近 (47°8, 153°0)	得撫丸航行中 152°19'E, 47°14'N にて急激なる 海震を感じ新知島附近に崩壊した處を認め, 各地 觀測所にて無感覺微動を記録す。
6	大正10年(1921) XII 8日 21時31分	茨城龍ヶ崎附近 (35°8, 140°1)	有感覺區域; 關東, 東北中部地方の大部分及び 近畿, 北海道の一部。強震區域; 關東地方の大部 分; (IV)東京, 銚子, 水戸, 熊谷, 宇都宮, 横濱, 横須賀, 飯田。被害; 千葉 縣印旛郡, 市原郡, 香取郡, 東葛飾郡等の諸處に道路の龜裂, 石碑倒潰, 家屋 の破損を生ず。茨城縣北相馬郡にて墓石の轉倒, 道路の龜裂等諸處に現る。宇 都宮市にても電燈の故障等多少の被害あり。餘震約50回内有感覺24回。
7	大正11年(1922) I 23日 7時05分	磐城 沖 (37°3, 141°4)	有感覺區域; 關東, 東北地方の大部分及び北海 道, 中部地方の一部。被害; 福島縣東部にて隧道 内に小龜裂を生じ, 瀬戸燒窯の破損せるあり。
8	大正11年(1922) IV 26日 10時11分	千葉木更津附近 ⁽⁴⁾ (35°4, 139°9)	有感覺區域; 關東, 東北, 中部地方の大部分及び 近畿地方の一部。強震區域; 千葉, 東京, 神奈川 の東京灣沿岸一帯。(IV)東京, 横濱, 横須賀, 熊谷, 飯田。被害; 東京では屋 根瓦, 土藏壁, 飾窓硝子の破損, 煉瓦壁の倒壊多數あり, 數名の死傷者を出す。 館山北條では壁に龜裂, 煉瓦煙突の折損等あり。木更津では土藏の破損, 壁に 龜裂等多く, 佐貫及び湊町附近では鐵道線路破損し, 石碑の倒壊, 壁の龜裂, 煙突の破損等あり。布良では崖崩れのため住家三棟倒壊。横須賀では土藏の破 損, 壁の龜裂, 墓石の轉倒等あり。横濱では煉瓦家屋の破損, 屋根瓦の剝落壁 の龜裂等多少の被害を蒙らざるなく, 南京街特に著し。其他浦賀, 三崎, 葉山, 逗子等多少の被害あり。前震; 25日13時57分無感覺一回あり。餘震; 東京 にて29日午前中迄に觀測せるもの10回, 内有感3回。
9	大正11年(1922) V 9日 12時28分	茨城谷田部附近 (36°1, 140°1)	有感覺區域; 關東地方の大部分及び東北, 中部 地方の一部。強震區域; 茨城南部, 千葉北部, 埼 玉東部。被害; 土浦にて電話線の切斷せるもの三箇所其他井水の濁りし處あ り。高層氣象臺では廳舎の壁に龜裂を生ず。
10	大正11年(1922) IX 2日 4時15分	臺灣大南灣沖 (24°5, 122°2)	有感覺區域; 臺灣全島及石垣島。強震區域; 臺 北, 新竹兩州及花蓮港の北部。被害; 死者5, 傷 者7, 家屋全壞14, 破損163。其他器物等の被害無數。餘震; 無感覺1507 回, 有感覺77回, 内顯著地震3回, 稍顯著地震16回あり, 15日4時31分 のものは多少の被害を生じた。
11	大正11年(1922) XII 8日 1時59分	長崎千々石灣 ⁽⁵⁾ (32°7, 130°1)	有感覺區域; 九州の大部分及び中國, 四國, 朝 鮮の一部。強震區域; 長崎縣の南半及び熊本鹿兒

No.	發震時刻	震央 (北緯, 東經)	記 事
-----	------	----------------	-----

被 害

死者	傷者	全 壊 家 屋		半 壊 家 屋	
		住 家	非住家	住 家	非住家
27	39	194	449	661	763

島兩縣の一部。
被害の特に著しいのは島原半島南部の有家、有馬、串山、加津佐、小濱等の諸村で、熊本縣宇土、八代、天草等の諸郡下にも土地崩壞、石碑倒壞、

家屋の破損等多少あり。餘震; 7~14 日長崎で觀測した總回数 685 回、内有感 114 回。尙 8 日 11 時 02 分には顯著、8 日 2 時 10 分、8 日 14 時 17 分には稍顯著地震あり。

12. 大正11年(1922) 長崎千々石灣 (32°8, 130°1) 有感覺區域; 前者より稍狭い。被害; 主として小濱村北野附近に被害あり。死者 3, 家屋倒壞

日 付	7	8	9	10	11	12	13
有 感	2	37	24	7	7	2	3
無 感	10	589	189	140	113	61	75

70。この地震後餘震急に増加し、その後數日間の長崎の餘震回数は表の如し

13. 大正12年(1923) 臺灣臺南附近 (23°2, 120°2) 有感覺區域; 臺灣大部分及澎湖島。強震區域臺南州曾文郡及新化郡。被害; 曾文郡官田庄、烏山頭方面で墜落ち、柱建物の曲み、屋根瓦墜落等あり。

- * 大正12年(1923) 鹿島灘頻發地震 5 月中有感 26 回、無感 78 回、内 7 日 12 時 02 分、26 日 12 時 11 分、31 日 14 時 54 分、31 日 15 時 11 分に稍顯著地震あり。6 月中有感 78 回無感 221 回、2 日が最も多く、有感 41 回を感じた。2 日 2 時 25 分、2 日 5 時 14 分に顯著地震、2 日 12 時 12 分、5 日 11 時 07 分、20 日 5 時 04 分に稍顯著地震あり。7 月に入り活動衰へ總數は 50 回となつた。

14. 大正12年(1923) 種子島附近 (30°6, 131°1) 有感覺區域; 南西諸島北半及九州全島。強震區域; 鹿兒島縣全部。被害; 種子島能生郡北種子村字安城、壁に龜裂、石塔轉倒し、土地の小龜裂多數生ず。同中種子村家屋の小破 32、煙突破損 1、南種子村平山にて家屋の小破 45。餘震; 14 日 8 時 55 分同じ震央を有する稍顯著地震 1 回あり。

15. 大正12年(1923) 臺灣中部 (24°2, 121°1) 有感覺區域; 臺灣全島及石垣島、澎湖島。被害; 臺中北東方に於て多少の被害あり。(詳細不明)

16. 大正12年(1923) 關東大地震 (35°20', 139°20') 本州四國の全部及び北海道の一部で感ず。強震區域; 關東地方の大部分、静岡、山梨、長野の各縣。

(VI)東京、横濱、横須賀、富崎、熊谷、甲府、(V)銚子、宇都宮、沼津、濱松、長野、(IV)水戸、筑波山、足尾、前橋、松本。激震區域; 埼玉縣東部、東京附近、神奈川縣の大部分、房總半島南西部。震央に最も近い小田原、國府津、鎌倉、館山附近等で震動最も激しく震度は重力の 4~5 割に達した處あり。東京では下町で 1.5~2.5 割に達し、山手では 1 割内外であつた。東京で觀測した最大全振幅は約 14~20 糎、週期 1.2 秒内外である。
地變; (I) 隆起及沈降; 東京附近以西及び神奈川縣北方一帯は沈降す、房總方面全部隆起す、木更津附近 32 糎、北條附近 157 糎、神奈川縣一帯は隆起し

No	發震時刻	震央 (北緯, 東經)		記 事					
----	------	----------------	--	-----	--	--	--	--	--

種別 府縣別	死者	傷者	行方不明	家 屋					合計(半潰を除く)
				全潰	半潰	焼失	流失		
神奈川県 (含横濱市)	29,065	56,269	4,002	62,887	52,863	68,569	136	131,592	
横須賀市	23,440	42,053	3,183	11,615	7,992	58,981	—	70,596	
横須賀市 東京府	540	982	125	8,300	2,500	3,500	—	11,800	
(含東 京市)	68,215	42,135	39,304	20,179	34,632	377,907	—	398,086	
東京市	59,065	15,674	1,055	3,886	4,230	366,262	—	370,148	
千葉県	1,335	3,426	7	31,186	14,919	647	71	31,904	
埼玉県	216	497	95	9,268	7,577	—	—	9,268	
山梨県	20	116	—	1,763	4,994	—	—	1,763	
静岡県	375	1,243	68	2,298	10,219	5	661	2,964	
茨城県	5	40	—	517	681	—	—	517	
長野県	—	—	—	45	176	—	—	45	
栃木県	—	3	—	16	2	—	—	16	
群馬県	—	4	—	107	170	—	—	107	
合計	99,331	103,733	43,476	128,266	126,233	447,128	868	576,262	

藤澤附近 75 軒, 大磯附近 182 軒, 又相模灣底は小田原, 布良を結ぶ線を界にし北部は隆起し, 南部伊豆大島に至る地帯は大略沈降す。(2) 山崩れ; 房総半島南部, 三浦半島, 相模南西部, 伊豆半島の各處に山崩れ, 崖崩れ等あり。(3) 津浪; 三崎, 鎌倉, 熱海, 伊東, 布良及び伊豆, 大島北岸には津浪があり, 流失家屋多數を生ず, 三崎に於ける浪の高さは約6米であつた。餘震; 東京にて9月中に観測された有感餘震は 1,189 回で震度(IV)以上のもの8回, 10月中 66 回あり。

- 17 大正12年(1923) IX 1日16時38分 山梨山中附近 (35°5, 138°9) (V)沼津, 飯田, (IV)東京。震央地方には多少の被害あり。
- 18 大正12年(1923) IX 2日11時47分 千葉勝浦沖 (35°1, 140°4) 有感覺區域; 關東, 中部地方の大部分, 東北地方南部, 近畿, 中國, 四國の一部。強震區域; 千葉縣南東部。被害; 勝浦にて1日の大地震より強く感じ, 屋根瓦の落ちた處あり。津浪; 九十九里濱一帶に小津浪を起したが浸水するに至らず。
- 19 大正12年(1923) IX 10日 2時11分 伊豆大島附近 (34°8, 139°4) 有感覺區域; 關東, 中部地方の南部。強震區域; 伊豆南部。被害; 伊豆下河津, 稻取附近で道路の破損等あり。
- 20 大正12年(1923) IX 26日17時24分 伊豆大島沖 (34°8, 139°4) 有感覺區域; 關東, 中部地方の大部分, 東北, 近畿の一部。強震區域; 伊豆南部及伊豆大島。被害; 伊豆大島東部にて瓦が落ちた程度の被害あり。
- 21 大正13年(1924) I 15日 5時51分 丹澤山附近 (35°5, 139°2) 有感覺區域; 中國, 四國の西部を除く本州の大部分及北海道の一部。強震區域; 關東地方西部及

No

發震時刻

震央
(北緯, 東經)

記

事

種別 府縣別	死者	傷者	家屋		
			全壊	半壊	破損
東京	6	166	25	78	1,692
神奈川	13	466	1,261	5,069	—
山梨	—	30	6	75	520
静岡	—	26	10	243	—
合計	19	638	1,298	2,439	2,212

中部地方の東部。
(VI)甲府, (V)熊谷, 横濱, 宇都宮, 東京, (IV)館山, 沼津, 足尾, 長野。
橋梁の破損東京府に 24, 神奈川 12, 神奈川に道路の破損 94, 崖崩 279 件あり。被害の最も多かつたのは神奈川縣, 高座, 中, 鎌倉, 愛甲の各

郡及横濱市, 山梨縣南都留郡等である。

- 22 大正13年(1924) III 15日19時32分 | 樺太惠須取附近 (48°8, 142°1) | 有感覺區域; 樺太全島。強震區域; 名好, 惠須取, 鶴城附近。被害; 北名好にて家屋傾斜, 壁落ち, 地割, 崖崩れ等あり。惠須取村白坂家屋倒壊 4, 負傷者 2, 名好川本支流共泥水となる。餘震; 數十回あり, 内 17 日 5 時 51 分に小區域地震あり。
- * 大正13年(1924) V~VIII | 鹿島灘頻發地震 | 5 月 31 日 21 時 02 分, 同日 21 時 27 分稍顯著地震あり同日中餘震約 20 回; 6 月中 118 回, 7 月中 41 回, 8 月に入りて再び活動を開始し, 總數 175 回, 内 40 回は有感なり。内主なるものは 6 日 23 時 22 分銚子附近, 15 日 2 時 53 分, 同 3 時 02 分, 同 8 時 27 分; 17 日 10 時 46 分, 25 日 23 時 31 分鹿島灘, 20 日 4 時 29 分九里濱沖等なり。
- 23 大正14年(1925) V 23日11時10分 | 北但馬烈震 (35°7, 134°7) | 有感覺區域; 近畿, 本州中部, 中國, 四國の全部; 關東地方の一部。強震區域; 近畿地方の北半。烈震區域; 圓山川中流及び下流域。(VI)豊岡, (IV)徳島, 京都, 多度津, 八木, 洲本, 和歌山, 大阪, 神戸。

被害

種別 府縣別	死者	傷者	家屋			
			全壊	半壊	破損	焼失
兵庫縣	421	804	1,275	723	3,266	2,180
京都府 (久美濱)	7	30	20	50	—	—
合計	428	834	1,295	773	3,266	2,180

被害の多かつたのは豊岡町, 田鶴野村, 新田村, 城崎町, 中筋村, 港村, 久美濱町等で, 豊岡町では全潰家屋殆どなく, 大部分は焼失家屋である。城崎町は全潰家屋も多く, 火災

のため殆ど全焼し, 地勢悪しきため約 270 人の死者を生ず。港村は震動最も強く, 全戸數 813 戸中全潰 309, 半潰 271, 破損 93, 焼失 148, 死者 37, 傷者 82 を生ず。

地變; 久美濱灣東北隅葛野川の河口の土地約 10 町歩陥没して海となり。このため久美濱灣の北半に「セイシュ」を起し浪の高さ 3.4 尺に達した。港村田結の津居山港東岸の山中に全長 1,600 米, 間隔 400 米の 2 列の小斷層現る。前震; 19 日 19 時 45 分 1 回あり。餘震; 5 月中有感 117 回, 無感 84 回

No.	發震時刻	震央 (北緯, 東經)	記	事
-----	------	----------------	---	---

(23 日の分を除く), 6 月中有感 84 回, 無感 205 回。其主なるものは 5 月 23 日 11 時 14 分(稍), 同 12 時 02 分(稍), 24 日 19 時 05 分(稍), 26 日 1 時 22 分(顯), 同 8 時 42 分(稍), 29 日 7 時 39 分(稍), 6 月 19 日 13 時 03 分(稍), 22 日 3 時 04 分(稍), 23 日 13 時 44 分(稍)。

24 大正14年(1925) 臺灣大南溥沖
VI 14日14時38分 (24°3, 121°8) 有感覺區域; 臺灣中部及北部。強震區域; 花蓮港附近。被害; 多少あり。前震及餘震; 5日9時36分の微震を始めとして10日に13回, 11日1回, 13日9回, 14日15回あり。餘震回数は極めて多く, 14日148回, 15日117回, 16日69回あり。前震中主なるものは14日9時18分(稍)花蓮港にて強震(弱き方)を感ず。餘震中主なるものは14日14時50分(稍)で花蓮港で強震(弱き方)を感ず。

25 大正14年(1925) 岐阜附近⁽¹¹⁾
VII 7日1時46分 (35°3, 136°9) 有感覺區域; 近畿, 本州中部の大部分, 關東, 中國の一部。被害; 四日市にて煙突の倒れたもの, 塀の破損せるもの等あり。餘震; 十數回あり。

26 大正15年(1926) 沖繩島南西沖
VI 29日23時30分 (25°0, 127°2) 有感覺區域; 那覇にて強震(弱き方), 名瀨にて弱震(弱き方)を感ず。被害; 那覇市及び首里市にて石垣の崩壊等あり。

27 大正15年(1926) 東京灣中部⁽¹³⁾
VIII 3日18時26分 (35°5, 139°8) 有感覺區域; 關東, 中部地方の大部分, 近畿, 東北地方の一部。強震區域; 東京, 神奈川, 千葉の東京灣沿岸地方。(V)東京, (IV)横須賀, 横濱, 甲府, 布良, 小名濱。被害; 京濱間で電話不通となり; 東京, 横濱では水道鐵管, 瓦斯管等破裂し, 崖石垣崩れ, 器物の破損等あり。震源の深さ約40軒。

28 大正15年(1926) 北海道襟裳岬沖⁽¹⁴⁾
IX 5日0時37分 (42°2, 143°9) 有感覺區域; 北海道全部, 東北地方大部分, 關東地方一部。強震區域; 北海道の太平洋岸。被害; 十勝郡大津村, 厚内村, 浦幌村, 池田町等の軟弱なる土地に龜裂を生じ, 器物の破損等の損害あり。

29 昭和2年(1927) 北丹後烈震⁽¹⁵⁾
III 7日18時28分 (35°7, 135°1) 有感覺區域; 近畿, 中國, 四國, 九州, 本州中部の全部及關東地方の大部分。強震區域; 近畿, 本州中部地方の大部分, 中國の東部, 四國の一部。(VI)宮津, 豐岡, (V)京都, 和歌山, 高知, 徳島, 八木, 福井, 神戸, (IV)大阪, 洲本, 彦根, 岐阜, 岡山, 伏木, 多度津, 飯田, 松山, 甲府, 境, 名古屋。烈震區域; 京都府與謝郡, 中郡, 熊野郡, 竹野郡, 兵庫縣城崎郡, 出石郡。

種別 府縣別	死者	傷者	家屋			
			全壊	半壊	焼失	
京都府	與謝郡	575	1,324	5,724	4,128	1,112
	中郡	1,499	3,590	2,989	3,383	1,478
	竹野郡	818	2,608	3,053	1,614	1,121
	熊野郡	6	73	611	1,394	—
計	2,898	7,595	1,2377	10,519	3,711	
兵庫縣	6	85	80	250	破損 (4,640)	
大阪府	21	126	127	117	—	
總計	2,925	7,806	12,584	10,841	3,711	

No	發震時刻	震央 (北緯, 東經)	記	事
----	------	----------------	---	---

被害; 被害の多かつたのは郷村及び山田斷層に沿うた地帯である。峯山町は火災を生じて殆ど全焼し、死者 1,014, 傷者 1,232 を生じた。其の他大阪府下では埋立地或は軟弱地に龜裂を生じ、大阪市鶴町では地割より泥水噴出して浸水家屋を出した。淡路の洲本でも屋根瓦の墜落、電線の切斷、土塀家屋等に破損あり。鳥取縣では鳥取市、米子町等に多少家屋の損害あり。滋賀、岡山、福井、徳島、三重、香川各縣でも處々に家屋の破損、器物の損害等あつた。

斷層; 主なる地變は郷村斷層及山田斷層である。郷村斷層は淺茂川、網野、峯山、山田を連ね、北方は海中に續く、數條の雁行形となり、方向は大體北々西一南々東で、延長 18 軒に及び、西側は東側に對して上昇し(最大 80 糎)且つ南方へ(最大 270 糎)喰違ひを生じた。山田斷層は幾地より上山田の北部を走り、岩瀧の南方に出て宮津灣内に没する、略郷村斷層に直角に現れた副斷層で延長約 7 軒、北側が相對的に隆起し(最大 70 糎)且つ東方への横ズレ(最大 80 糎)を生じた。

餘震回数

餘震; 餘震中稍顯著以上のものを舉ぐれば

種別 月	有感覺	無感覺
	3	412
4	224	266
5	51	96
6	30	32
7	16	22
8	4	20
合計	737	922

3月 7日 18時44分	7日 19時46分
7日 22時24分	8日 0時36分
8日 0時43分	8日 9時13分
8日 23時43分	9日 20時44分
11日 7時35分	11日 9時50分
4月 1日 6時08分	8日 23時05分

30 昭和 2 年(1927) VIII 6日 9時13分 | 阿武隈川河口沖 (37°7, 141°6) | 有感覺區域; 北海道南部及本州の東半部。強震區域; 東北地方南東部及關東地方一部。(V)福島, 石巻, (IV)仙臺, 宇都宮, 小名濱, 會津, 水澤, 宮古。被害; 宮城縣下各地に小規模の地盤の龜裂を生じ, 地下水湧出し, 地盤軟弱の處に於ては建物, 煙突, 石垣, 塀, 墓石の倒潰, 破損で約 15,000圓の損害あり。一時電信電話の不通となつた處もある。損害の最も多かつたのは, 互理町, 渡波町, 石巻町等である。青根温泉は地震前温度 2°C 昇り, 湯が白色となり。作並温泉は震後湯量増加し, 温度 4°C 昇る。

31 昭和 2 年(1927) VIII 25日 3時09分 | 臺灣下淡水溪上流 (23°1, 120°5) | 有感覺區域; 臺灣全部。強震區域; 臺南州中部及南部。被害; 新營郡鹽水地方にて壓死者 9, 負傷者 27 を出す。餘震; 有感 2 回, 無感 13 回あり。

32 昭和 2 年(1927) X 27日 10時53分 | 新潟三島郡 (37°4, 138°7) | 有感覺區域; 本州中部地方の東北部, 東北地方の一部。強震區域; 新潟縣三島郡關原, 宮本, 日吉の各村。被害; 其の他墓石の顛倒あり。宮本村西田の田圃内に石油瓦斯噴出孔を生じ, 青砂と共に石油を噴出した。又震央附近では地震直前地鳴を聞いた。前震及餘震; 前震は 10 時 10 分, 同 35 分, 同 36 分, の

種別 村別	傷者	家屋		道路 龜裂
		半壞	大破	
日吉村	2	9	200	4
關原本村	—	8	21	3
宮本村	—	6	31	—
計	2	23	252	7

No.	發震時刻	震央 (緯度, 經度)	記 事								
			3 回あり。餘震は 27 日中に 60 回あり何れも局部的地震であつた。								
33	昭和 2 年(1927) Ⅻ 2 日 15 時 55 分	和歌山有田川流域 (34° 2', 135° 3')	有感覺區域; 近畿地方全部, 中部地方の西部, 中國四國の東部。強震區域; 和歌山縣中部。被害; 湯淺町附近にて墓石, 石燈籠の顛倒, 土塀倒壞, 土地の龜裂等を生ず。餘震; 有感約 50 回, 無感 29 回あり。								
34	昭和 3 年(1928) Ⅴ 21 日 1 時 28 分	千葉附近 (35° 6', 140° 1')	有感覺區域; 關東地方全部, 中部地方の大部分, 東北地方の大半。強震區域; 東京灣北部沿岸地方。被害; 江戸川河口附近で器物の破損, 土塀の龜裂, 破壊, 電線の切斷等を生ず。震源の深さは約 60 軒。								
35	昭和 4 年(1929) Ⅴ 22 日 1 時 35 分	日向灘 (31° 8', 131° 8')	有感覺區域; 九州, 中國大部分及四國の大半。強震區域; 九州の南半。被害; 宮崎市にて棟瓦, 煙突, 倒壞, 硝子窓, 土壁, 陶器, 屋根の破損あり。宮崎郡青島村内海の岸壁長さ 30 間幅 1~2 分龜裂す。各地に電線の切斷を生ず。餘震; 有感 4 回, 無感 44 回あり。								
36	昭和 4 年(1929) Ⅶ 27 日 7 時 48 分	丹澤山附近 (35° 5', 139° 1')	有感覺區域; 關東, 中部地方の全部及東北, 近畿地方の一部。強震區域; 關東地方南西部及中部地方南東部。(Ⅴ)横須賀, 横濱, 東京, (Ⅳ)甲府, 沼津。被害; 東京市内にて電柱倒れ, コンクリート壁に龜裂が入つた程度。神奈川縣では軟弱な土地に龜裂を生じ, 壁に龜裂あり, 處により崖崩れ等もあり。井水の濁つた處もあつた。餘震; 有感 3 回, 無感 1 回あり。震源の深さ 23 軒。								
37	昭和 4 年(1929) Ⅺ 20 日 14 時 54 分	和歌山有田川河口 (34° 1', 135° 1')	有感覺區域; 近畿, 四國の大部分及中國地方の東半。強震區域; 和歌山縣北部, 大阪府南部, 淡路島, 徳島縣の一部。被害; 和歌山縣有田郡, 海草郡下にて石燈籠, 墓石の顛倒, 土地に龜裂, 煙突, 土塀の倒壞等あり。日高町志賀村にて 20 數戸の井水が減水した。								
38	昭和 5 年(1930) Ⅱ 11 日 9 時 12 分	和歌山紀伊川河口 (34° 1', 135° 2')	有感覺區域; 近畿地方大部分, 中國南東部, 四國北西部。強震區域; 和歌山縣北部及大阪府の一部。被害; 和歌山市及海草郡下にて土塀, 煙突, 土藏の破損, 墓石, 石燈籠の倒壞等あり。								
39	昭和 5 年(1930) Ⅱ~Ⅴ	伊東群生地震 (26) (27) (28)	震源の區域; 伊東の東方 2~3 軒の沖合。被害; 3 月 22 日 17 時 51 分頃に發したのが最大の強震であつたが, 屋根瓦の墜落, 壁に龜裂の入つた程度である。活動の經過, 2 月 13 日 22 時 20 分頃 1 回の微震を發せるを最初とし, 其の後小地震の發生は次第に頻繁となり, 22 日頃最盛となり月末に至つて稍衰えたが, 3 月に入再び活動旺盛となり, 3 月 1 日には 79 回, 3 日に 136 回, 4 日に 187 回, 5 日に 100 回, 8 日に 103 回, 9 日に 126 回, 11 日に 124 回, 24 日に 231 回に達し, 4 月に入つて活動衰へ總數僅かに 159 回に過ぎなかつた。5 月 6 日に至り再び 59 回の地震を感じ, 8 日以後再び活動を始め 10 日には 189 回を感じるに至り。5 月中の合計は 1,368 回であつた。 地震發生の状態; 伊東町で觀測した, 此等地震の初期微動は 1~2 秒で平均 1.5 秒である。従つて震央は伊東町に極めて								
		伊東に於ける 有感地震回数									
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>2 月</th> <th>3 月</th> <th>4 月</th> <th>5 月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>214</td> <td>2,274</td> <td>159</td> <td>1,368</td> </tr> </tbody> </table>	2 月	3 月	4 月	5 月	214	2,274	159	1,368	
2 月	3 月	4 月	5 月								
214	2,274	159	1,368								

No	發震時刻	震央 (緯度, 經度)	記 事
			近い汐吹岬を中心とした敷料の區域で; 震源の深さも敷料を出でない極めて淺いものである。而して之等地震群の特長は 2~3 時間或は 4~5 時間の間に頻發し再び平靜となる。概して干潮時に活動し、満潮時には平靜となる傾向があつた。之等地震中主なるものは 3 月 9 日 19 時 54 分(稍), 22 日 17 時 50 分(稍), 5 月 17 日 5 時 14 分(稍) 等であつた。
40	昭和 5 年(1930) VI 1 日 2 時 58 分	那珂川下流域 (36°4, 140°4)	有感覺區域, 關東地方全部, 東北地方及中部地方の大半。強震區域; 關東地方の大部分及福島縣南部。(V)水戸, (IV)東京, 柿岡, 宇都宮, 前橋, 福島。被害; 水戸市, 久慈町, 太田町, 鉢田村, 土浦町, 石岡町, 眞壁町, 水海道町等にて家屋の破損, 壁に龜裂, 墓石轉倒, 煉瓦塀崩壊, 屋根瓦崩落等あり。
41 42	昭和 5 年(1930) X 17 日 { 6 時 32 分 6 時 36 分	石川縣大聖寺附近 ⁽²⁹⁾ (36°3, 136°3)	有感覺區域; (6 時 32 分) 中部地方の北西半, 近畿の大半, 中國の一部。(6 時 36 分) 中部地方北西半, 近畿地方の大部分, 中國四國の東部。強震區域; (6 時 32 分) 石川縣南西部及福井縣北東部。(6 時 36 分) 石川縣南部, 福井縣大部分, 富山縣一部。被害; 石川縣大聖寺町, 吉崎村, 小松町附近にて煙突の破損, 墓石の轉倒, 家屋の壁の剝落等あり。小松町其他では震後水を噴出した處あり。餘震; 9 回あり。
43	昭和 5 年(1930) XI 26 日 4 時 03 分	北伊豆烈震 ⁽³⁰⁾ (35°1, 139°0)	有感覺區域; 關東, 近畿地方の全部, 中部地方の大部分, 東北地方南部, 中國東部, 四國の一部。強震區域; 關東地方西部, 中部地方南東部。烈震區域; 靜岡縣田方郡及び箱根山附近。(VI)三島, (V)横濱, 沼津, 横須賀, (IV)甲府, 飯田, 熊谷, 前橋, 名古屋, 東京。

被 害

種別 縣別	死者	傷者	家 屋			損 害 見 積 高
			全壊	半壊	焼失	
靜 岡 縣	259	566	2,077	5,424	75	2,450萬圓
神 奈 川 縣	13	6	88	92	—	100萬圓
合 計	272	572	2,165	5,516	75	2,550萬圓

被害の多いのは箱根町と浮橋を連ねる線を長軸とした略楕圓形の區域内である。震後火災を生じたのは伊東町である。斷層; 主

なるものは丹那斷層であつて箱根火山より中大見村原保に至る南北に走る延長約 35 ㌔に互る, 水平のズレは東部は北へ, 西部は南方へズレ, 上下の差は明瞭でないが, 大體斷層の北部では東上り西下りで, 南部ではこの逆である。水平のズレは丹那盆地附近では約 2~3 米である。他の一枝は浮橋より青羽根に至る加殿斷層及び原保より姫の湯を経て西方山中に入る, 即ち主斷層に略直角に東西に走る原保斷層とである。而して原保斷層では水平のズレは北側は東へ, 南側は西へズレてゐる。之等の斷層に沿つて箱根町附近では山崩れ崖崩れ, 道路の龜裂等多く, 中大見村城附近の山腹の畑地約 1 町歩陥没し, この東側の土地は約 3 間位の高さに隆起した。加殿斷層に沿つた佐野梶山には顯著な山崩れがあつた。

前震; 三島で觀測した前震回数は次の如し, 内有感覺は 200 回あり。

No.	發震時刻	震央 (緯度, 經度)	記	事
-----	------	----------------	---	---

前 震

日付	11月11日	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	合計
回数	19	35	63	10	168	195	124	50	8	178	290	57	246	47	789	79	2,358

餘震；三島で観測した餘震回数は1,597回で、内有感覺回数は181回あつた。

日付	11月26日	27	28	29	30	12月1日	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
回数	54	109	85	33	32	19	100	227	29	36	14	206	15	3	447	13	35	20	7
日付	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	合計	
回数	11	6	16	10	11	4	8	8	2	14	7	2	2	2	3	5	3	1,597	

44 昭和5年(1930) 廣島三次附近⁽³¹⁾ 有感覺區域；中國全部，四國の大半，近畿地方
 XII 20日23時02分 (34°8, 132°9) の大部分，九州，中部地方の一部。強震區域；廣
 島縣三双郡の一部及島根縣赤石附近。被害；廣島縣君田村，布野村，作木村等
 で崖崩れ，墓石の顛倒，壁に龜裂等あり。異常現象；震央地方では本震發現以
 來絶えず地鳴を聞き，比和村，口北村，口南村，山内西村，八次内村，君田村，
 布野村では震後井水酒枯減水した。
 餘震；有感覺 29 回，無感覺 12 回あり，内主なるものは，20日23時43分
 (稍)，21日8時26分(小)，21日21時14分(顯)，21日21時14分(稍)，
 22日1時29分(小)等である。

45 昭和5年(1930) 臺灣曾文溪中流域 有感覺區域；8日15時20分(稍)臺灣全島に
 XII 8~22日 (23°4, 120°5) 有感，8日17時01分(顯)臺灣全島及石垣島，
 21日23時51分(顯)臺灣全島及石垣島，沖繩島，22日8時52分(顯)臺灣
 全島及石垣島，22日9時08分(顯)同前，22日9時21分(小)，22日13時
 19分同前，外に有感覺地震14回あり，以上の内被害のあつたのは8日15時，
 8日17時及22日8時51分，
 22日9時07分，22日13時19
 分の5回で，家屋の倒壊死傷者
 等あり。8日の地震で臺南州曾
 文郡，新營郡，新化郡に被害あり。
 曾文郡六甲庄附近最も多
 く，同郡下營庄の畑の中に大龜裂を生じ
 砂水を噴出した。22日の地震では臺南
 市新内町の道路に龜裂を生じ泥水を噴
 出し，最も被害の多かつたのは新營郡下
 で關子領道路は崖崩れのため自動車交通
 杜絶した。

8 日

死者	傷者	家		屋	煉瓦崩 倒壊
		全壊	半壊	大破	
4	25	49	279	172	165

2 2 日

死者	傷者	家		屋
		全壊	半壊	大破
0	14	121	424	2,295

46 昭和6年(1931) 北海道浦河附近⁽³²⁾ 有感覺區域；北海道全島，東北地方の大部分，
 II 17日3時48分 (42°3, 142°6) 關東地方の北部。強震區域；北海道西南部及青森
 縣の大部分。被害；浦河町附近では殆ど壁の龜裂，脱落，柱鴨居の狂ひ，家具の
 破損あり。異常現象；地震の翌々日に至り新冠川河口附近の海岸にアブラコ，
 カンヅ，キンキン，タコ等の魚類の死體が多數打ち上つた。餘震；本震後浦河

No 發震時刻 震央 (緯度, 經度) 記 事

で觀測された餘震回数は次の如し。

日種別	17日	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	合計
有感	50	7	7	2	1	1	0	0	0	0	0	0	68
無感	119	17	8	5	8	5	9	6	6	5	6	1	195

47 昭和6年(1931) 馬淵川河口沖⁽³³⁾ 有感覺區域; 北海道の大部分, 東北地方關東地方の全部, 本洲中部地方の一部。強震區域; 煙東北地方北東部, 北海道の太平洋岸の一部。被害; 八戸市では壁の剝落, 煉瓦突の折損, 墓石の顛倒, 酒類の迸出等で損害約 12 萬圓, 函館市にて煉瓦煙突倒壊, 煉瓦塀, 壁の龜裂等あり。又湯の川温泉は一時濁り噴出量を増した。青森では壁に龜裂, 棚の物落ちた程度。餘震; 有感覺 5 回, 無感覺 22 回内主なるものは 9 日 19 時 26 分 (小), 10 日 2 時 29 分 (小), 10 日 2 時 56 分 (顯) 等である。

48 昭和9年(1931) 西埼玉強震⁽³⁴⁾ 有感覺區域; 關東, 本洲中部地方の全部, 近畿地方北東部, 東北地方南部。強震區域; 關東地方の大部分, 中部地方南東部, 福島縣南部。(V)熊谷, 前橋, 筑波山, 柿岡, 水戸, (IV)追分, 沼津, 甲府, 東京, 横須賀, 宇都宮, 横濱, 松本, 伊東, 銚子, 小名濱。震央附近である埼玉縣西部の山地では震度比較的小で, 東部の軟弱なる地層即ち荒川, 利根川の沖積層で處々烈震を感じた。特に深谷, 兒玉, 本庄, 鴻巣, 松山, 忍, 久喜, 熊谷等の諸町村にて死傷者, 倒潰家屋等が多かつた。

種別 府縣別	死者	傷者	家屋		炭突 倒壊	損害 見積高
			全壊	半壊		
埼玉縣	11	114	172	380	84	100萬圓
茨城縣	—	1	33	4	48	
群馬縣	5	30	1	1	1	
東京府	—	1	—	—	—	
合計	16	146	206	285	133	

異常現象; (1) 井水の混濁, 埼玉縣下大部分及び群馬縣の利根川流域地方では一般に混濁し, 清澄する迄に相當の時間がかつた。又濁濁した井戸も少數あつた。(2) 土砂の噴出, 利根川及荒川流域の一部で土地の龜裂せる部分より土砂を含んだ地下水が各處に噴出し, 一時は洪水の如き觀を呈した處もあつた。噴出した細砂は青色, 褐色或は黒色のものあり, 多くは石英, 長石等の混合物であつた。

餘 震

日種別	9月 21日	22	23	24	25	26	27	28	29	30	10月	11月	合計
有感覺	65	23	5	8	1	5	0	4	2	0	24	13	150
無感覺	80	49	36	18	12	11	8	12	3	1	30	14	274

No. 發震時刻 震央 (緯度, 經度) 記事

内主なるものは9月21日11時46分(小), 12時10分(小), 12時24分(小), 15時21分(小), 15時48分(小), 15時50分(小), 23日21時46分(小), 24日1時22分, 同21時11分(小), 28日13時54分, 10月3日2時36分(稍), 5日6時28分(小)。

49 昭和6年(1931) 日 向 灘 有感覺區域; 九州全部, 四國大半, 中國の一部
 XI 2日19時03分 (32°2, 132°1) 強震區域九州中部及南部 (V) 宮崎, (IV) 大分, 鹿兒島。

被 害

種別 縣別	死者	傷者	家 屋			煙突 倒壊	石造物倒壊			土 地				橋梁 破損	商品 円
			全壊	半壊	破損		墓石	石燈	石垣	地割	道路	山崩	地沈		
宮崎縣	1	29	4	10	46	198	—	862	6	3	4	8	1	5	550
熊兒島縣	—	—	1	11	—	17	—	—	2	—	1	—	—	1	—

比較的被害多く, 死傷者を生じたのは宮崎市及都城市である。

種別	日											合計
	2日	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
有感覺	13	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	19
無感覺	47	38	3	0	2	2	4	2	0	2	100	

前震及餘震; 前震2日3時53分(稍)1回あり。餘震中主なるものは2日19時31分(小), 同20時00分(顯), 20時10分(小), 20時20分(小), 20時33分(小), 20時46分(小), 21時11分(小)等である。

50 昭和6年(1931) 岩手小國附近 有感覺區域; 東北地方全部, 關東北部, 北海道
 XI 4日1時19分 (39°5, 141°7) 南西部。強震區域; 岩手縣北部, 青森縣一部。被害; 岩手縣下閉伊郡小國村, 上閉伊郡金澤村の一部にて道路の龜裂, 石垣の崩壞, 民家の壁の龜裂, 剝落等あり。又炭竈の大半が崩壞した。餘震; 盛岡で觀測せる回数は11月・30日迄に84回であつた。

51 昭和6年(1931) 熊本大矢野島の 12月下旬より天草上島と大矢野島との間の大戸
 XII 頻發地震 の瀬戸附近に地震を頻發し, 特に21日14時47分(稍)(震央130°4E, 32°6N), 22日22時08分(稍)(震央130°5E, 32°6N), 26日10時43分(130°5E, 32°5N)は何れも震央附近で強震を感じ, 九州全般から中國四國の西部に互り人身感覺あり。21日及22日のものは主として大矢野島及天草上島の北端に於て強く八代町沿岸に多少の被害を生じ, 26日の強震では八代海沿岸田の浦村附近に多少の被害を生じた。被害は何れも墓石の轉倒, 道路の小龜裂, 家屋の壁及土藏の壁の龜裂, 剝落, 堤防の小崩壞等である。又26日の強震のため島原町の西方眉山の一部が崩壞した。熊本で觀測した地震回数は前後を通じて有感5回, 無感29回であつた。

52 昭和7年(1932) 北海道新冠川河口 (35) 有感覺區域; 北海道及東北地方の大部分。強震
 XII 26日13時24日 (42°4, 142°3) 區域; 北海道南西部及青森縣の一部。(V)浦河, (IV)室蘭, 帶廣, 札幌, 函館。被害; 浦河, 歌笛, 靜内, 門別, 平取等の諸町村にて壁の龜裂, 剝落, 器物の破損, 墓石の轉倒, 土地の小龜裂等あり。登別溫泉附近紅葉谷では崖崩れを生じ電車一時不通となる。餘震; 有感覺129回,

No. 發震時刻 震央 (緯度, 經度) 記事

無感覺 148 回あり。内主なるものは 26 日 16 時 37 分 (小), 同日 17 時 47 分 (小), 同 21 時 01 分 (顯) である。

53

昭和 8 年(1933)
III 3 日 2 時 31 分

三陸沖強震⁽³⁶⁾
(39°1, 144°7)

有感覺區域; 北海道の大部分; 東北, 關東, 本州中部地方の大部分, 近畿地方の一部。強震區域; 北海道南東部, 東北地方の大部分, 關東地方の一部。(V)宮古, 石巻, 仙臺, 福島, 會津, 柿岡, (IV)盛岡, 浦河, 青森, 釧路, 小名濱, 函館, 水戸, 筑波山, 熊谷, 前橋, 横濱, 甲府。

被害; 地震に依る直接の被害はなかつたが, 之に伴つて生じた津浪のため北海道太平洋岸, 三陸沿岸に多大の被害を生じた。津浪; 津浪の到達時刻は震後

種別 府縣別	人		家 屋				船 舶		其 の 他
	死者	傷者	流失	倒壊	浸水	焼失	流失	破損	
岩手縣	2658	881	3850	1585	2520	249	(5860)	破損を 含む	農作物, 山林等
宮城縣	307	145	950	528	1520	—	948	425	
青森縣	30	70	85	136	107	—	314	317	船具漁具等
北海道	13	56	32	90	182	—	178	158	
福島縣	—	—	—	—	—	—	3	10	堤防決潰, 乾魚流失
山形縣	—	—	—	7	—	—	—	—	醸造酒溢出 (23.8 石)
計	3008	1152	4917	2346	4329	249	7303	910	

25~40 分で, 浪の高さは岩手縣田老では 10.1 米, 重茂では 10.8 米, 白濱では 23.0 米, 小白濱では 6.0 米; 宮城縣只越では 7.0 米等で, 各地の驗潮儀で記録された結果は北上川月濱では全振幅 100~80 種, 鮎川では 50~100 種, 氣仙沼灣小々汐では 150~200 種, 銚子では 20 種, 富崎では 30 種, 鳥羽では 15 種であつて, 明治 29 年に比すれば概して低かつた。

異常現象; (1) 音響と地鳴; 地鳴は北海道南部, 東北地方, 關東地方の大半及び中部地方の内陸で聴取され, 又大砲の如き音響は地震後岩手, 秋田, 宮城の諸縣下で聴取された。(2) 海震; 附近航行中の船舶もんでお丸, 小倉丸, 摩耶丸, 東星丸, 平安丸, 得撫丸, 光洋丸, 盛進丸等海震を感じた。3 月中顯著地震 18 回, 稍顯著地震 9 回, 4 月中顯著 8 回, 稍顯 3 回小區域 1 回, 5 月中顯著地震 1 回あり。

餘 震

種別	3 月	4 月	5 月
有感	31	12	2
無感	1,239	236	97

54

昭和 8 年(1933)
V 21 日 12 時 14 分

能登強震⁽³⁷⁾⁽²⁸⁾
(37°1, 137°0)

有感覺區域; 北陸道全部及中部地方の一部。強震區域; 石川縣七尾灣沿岸。被害; 石川縣鹿島郡七尾, 石崎, 和倉; 田鶴濱等で家屋, 土藏, 墓石の倒壊等あり, 各處に小規模の地割, 崖崩れ等あつた。鹿島郡下の被害は次の如し, 餘震; 有感 3 回, 無

死者	傷者	家 屋			土 藏			其他の建物			道路及鐵路		石造物 倒 壊	煙突 倒 壊	
		倒壊	傾斜	破損	倒壊	傾斜	破損	倒壊	傾斜	破損	崩壞	龜裂			曲折
3	55	2	12	131	2	44	275	8	8	56	13	101	5	588	75

発震時刻	震央 (緯度, 経度)	記 事										
感覚 6 回あり。												
55 昭和 9 年(1934) Ⅲ21日12時39分	伊豆天城山附近 ⁽³⁹⁾ (34°9, 139°0)	有感覺區域; 静岡, 神奈川, 山梨の諸縣下及房 總半島南部。強震區域; 伊豆半島中部。被害; 湯 ヶ島, 天城峠間にて崖崩れ, 湯ヶ島, 興市坂, 白田, 上河津等にて墓石の顛倒 あり。餘震; 約 20 回あり。内約半数は有感覺であつた。										
56 昭和 9 年(1934) Ⅷ11日17時18分	臺灣一宜蘭附近 (24°7, 121°8)	有感覺區域; 臺灣の中部北部及石垣島。強震區 域臺北州。被害; 基隆郡, 羅東郡蘇澳郡等に被害 あり。 餘震; 有感 4 回無感約 20 回あり。										
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">傷者</th> <th colspan="2">家 屋</th> <th rowspan="2">煙 突 倒 壊</th> </tr> <tr> <th>全 壊</th> <th>半 壊</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>44</td> </tr> </tbody> </table>			傷者	家 屋		煙 突 倒 壊	全 壊	半 壊	3	6	7	44
傷者	家 屋			煙 突 倒 壊								
	全 壊	半 壊										
3	6	7	44									
57 昭和 9 年(1934) Ⅷ18日11時38分	岐阜八幡附近 ⁽⁴⁰⁾ (35°7, 137°0)	有感覺區域; 中部地方全部, 近畿地方の大半, 中國, 四國, 關東の一部。強震區域; 岐阜縣郡上; 武儀, 加茂の諸郡。被害; 八幡町, 下川村, 相生村, 金山町, 菅田町, 神淵村, 下麻生町等にて壁に龜裂, 土蔵の破損, 墓石の轉倒, 道路に龜裂, 崖崩れ等 あり。震央附近では地震後屢々鳴動を聞いた。餘震; 有感約 10 回, 無感約 20 回あり。										

(41) (42)
和歌山附近の局發地震; 和歌山に於ける地震回数は大正 9 年 (1920) 頃より急に増
大し現在に至る迄活動を續けてゐる, 最も多いのは大正 12 年に 311 回である。

年別有感覺地震回数

年	明治 40	41	42	43	44	45	大正 2	3	4	5	6	7	8	9	10
回数	21	25	22	9	29	25	13	17	16	22	21	11	17	105	156

11	12	13	14	15	昭和 2	3	4	5	6	7	8
105	311	198	220	150	148	116	119	142	120	112	134

震度は一般に性質急なる微弱震で地鳴を伴ふものが多い, 有感覺區域の極めて狭
く; 震源の深さは極めて浅い。震源は多くは和歌浦灣, 有田川, 紀伊川河口, 紀伊水
道等である。

和歌山附近主な強震表 (* 印は概表中へ記載せるもの)

No.	發 震 時	記 事
1	大正13年 2月20日20時01分	電燈消失, 棚上の物落下
2	同 8月13日 3時19分	地割, 石垣崩壊, 屋根瓦墜落
3	*昭和 2年12月 2日15時55分	土地龜裂, 土塀墓石の轉倒, 有田郡下にて井水の減 水せるもの 10 數戸あり。

No.	發 震 時	記 事
4	3 年 7 月 7 日 17 時 40 分	
5	4 年 7 月 4 日 5 時 02 分	山上より岩石落下
6	*4 年 11 月 20 日 14 時 54 分	土地龜裂, 土塀石燈籠倒壞
7	5 年 2 月 11 日 9 時 12 分	土塀倒壞, 土地龜裂
8	6 年 12 月 23 日 19 時 52 分	電燈消失, 棚上の物落下
9	8 年 7 月 29 日 1 時 44 分	

(昭和 10 年 3 月)

引 用 文 獻

- (1) 中村, 青木; 氣象集誌第 38 年第 12 號 (大正 8 年) 395 頁, (2) 神奈川縣測候所; 箱根山の過去及現狀 (パンフレット), (3) 石川高見; 氣象集誌第 41 年第 1 號 (大正 11 年) 4 頁
(4) 中村左衛門太郎; 氣象集誌第 41 年第 5 號 (大正 11 年) 139 頁, (5) 同前; 氣象集誌第 42 年第 2 輯第 1 卷 (大正 12 年), (6) 震災豫防調査會報告第 100 號 (甲), (7) 同じく (乙)
(8) S. I. Kunitomi; Geophys. Mag. Vol. III P. 149, (9) K. Suda; Memories of Imp. Marine Obs. Kobe Japan. Vol. I. No. 4, (10) 震災豫防調査會報告第 101 號 (大正 14 年),
(11) 石川高見; 驗震時報第 1 卷第 4 號 170 頁, (12) 今村明恒; 地震第 3 卷 649 頁, (13) 鷺坂, 佐藤; 驗震時報第 2 卷 217 頁, (14) 帶廣測候所報告; 驗震時報第 2 卷 201 頁, (15) 今村明恒; 地震研究所彙報第 4 號 179 頁, (16) 驗震時報第 3 卷第 1 號, (17) 濱島仙次郎; 驗震時報第 3 卷第 2 號 291 頁, (18) 國富信一; 氣象集誌第 2 輯第 6 卷第 2 號 59 頁,
(19) 松澤武雄; 地震研究所彙報第 5 號 29 頁, (20) 鷺坂清信; 氣象集誌第 2 輯第 6 卷第 9 號 326 頁, (21) 今村明恒; 地震第 3 卷 141 頁, (22) 隼田公地; 驗震時報第 3 卷 339 頁,
(23) 隼田公地; 驗震時報第 4 卷 17 頁, (24) 橫濱測候所報告; 驗震時報第 4 卷 44 頁,
(25) 今村久; 地震第 2 卷第 3 號 10 頁, (26) 地震第 2 卷第 4 號及び第 5 號, (27) 那須信治; 地震第 2 卷第 5 號, (28) 國富信一; 岩波物理學講座別項, (29) 岸上冬彦; 地震研究所彙報第 9 號第 2 冊 219 頁, (30) 驗震時報第 4 卷第 3 號及び第 5 卷第 1 號, (31) 小平孝雄, 地震第 3 卷第 3 號 155 頁, (32) 北田道男; 驗震時報第 6 卷 133 頁, (34) 驗震時報第 5 卷第 2 號, (35) 北田道男; 驗震時報第 7 卷 103 頁, (36) 驗震時報第 7 卷第 2 號,
(37) 能登強震調査報告其の他; 驗震時報第 7 卷第 3 號, (38) 鈴木武夫; 地震第 5 卷 704 頁,
(39) 福富孝治; 地震研究所彙報第 12 號 527 頁, (40) 驗震時報第 8 卷 3, 4 號, (41) 岩西忠一; 地震第 3 卷第 5 號 257 頁, (42) 田口克敏; 驗震時報第 8 卷第 3, 4 號, (43) 震災豫防調査會報告第 88 號 (甲), (44) 同前 68 號 (乙)。